
○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前 9時30分）

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問の前に申し上げておきます。質疑、答弁は的確にわかり易く要領よく行ってください。通告以外の質疑はできません。また、関連質疑は議長の許可を受けて質疑を続けてください。質疑は一括質疑と一問一答方式どちらかを述べてから質疑に入ってください。それから固有名詞は発言に十分に注意してください。

なお、本定例会において町長に反問権を付与いたします。

最後に、傍聴者の皆さんに申し上げます。議場内ではお静かにお願い致します。

◎一般質問

○議長（稲葉昭宏君） 日程第5、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 藤 井 要 君

○議長（稲葉昭宏君） 通告順位1番、藤井要君。

（1番 藤井 要君 登壇）

○1番（藤井 要君） それでは、通告に従いまして、壇上より一般質問を行います。

松崎町の大きなイベントである太鼓フェスティバルや長八生誕200年祭、屋台引き回しによる秋祭りなど町民の観光客を楽しませたイベントも終わり、本定例議会が来年度計画や地方創生と松崎町の今後を左右すべき大事な議会であると考えます。

国はTPPの締結、新三本の矢による経済成長や一億総活躍社会、自立した個人の参加型社会などを謳っていますので、松崎町はこれらに乗り遅れることなく地域を活性化して消滅する町にならないように願うものであります。

また、当町では常葉大学と包括連携協定を結び連携して地域課題の解決、若い人材を活用し、地域力の向上や地域振興を図り、人口減や高齢化対策などに取り組むとっていますので、大いに期待するところであります。

一方、2014年度伊豆地域観光交流客数が道路開通で伊豆地域は13年度比5.7パーセント増と新聞に出ていましたが、清水町、南伊豆町、松崎町は減少し、当町は4.7パーセント減と厳し

い現実を突き付けられた気が致します。このようなことを踏まえ、松崎町の成長戦略、対策について質問をしたいと思います。

最初の質問は、県指定文化財依田邸についてであります。ご承知のとおり依田家住宅を活用した大沢温泉ホテルが競売され、松崎町とも関係の深い伊豆学研究会が共同で3200万円で落札しました。伊豆学の橋本理事長は、今後町などと話し合いを続けていく中で、具体的な活用法を考えていきたいと言っています。

以前町長は町での購入を否定した経緯もありますが、町の観光文化資源である依田邸と今後どのように向き合っていくのか、また、12月9日には関連資産の開札が予定されておりますが、この落札業者の動向によっては依田邸の利用方法が大きく変わると思いますが、町はどのように考えているのか伺います。

なお、現在この12月9日の競売については取り下げになっておりました。

次に、「松崎町が誇る8キロにも及ぶ桜並木が老木による枯れが見られるなどで次世代に向けた取り組みが必要であるとするが」についてであります。

三浦街道、役場周りから大沢へと続く桜並木は病害虫の予防や剪定、補植なども行っていますが、特に大沢川沿いの枯れがひどく、このままでは三聖苑から宮橋、依田邸へと続く小道の風情や大沢橋から眺める桜並木の景色がなくなってしまうのではないかと心配しているところがございます。見栄えのする木になるのには何年もかかりますので、対策を講じるべきだと考えますが、当局の対策案をお聞きます。

次に、しんわ福祉サービス松崎を運営しているしんわグループが西伊豆町において老人ホームやこども園開設、松崎、西伊豆町での農業事業の開始など活発な事業展開をしています。また最近では、幼児の一日保育、一時保育募集などがありました。町長はしんわグループ会長と松崎町での事業展開に向けた話し合いなど行ったことがあるのでしょうか。

石部での介護施設建設のお話もありましたが、町ではどの辺まで状況把握をしているのかお尋ね致します。

次の質問に入ります。人口減少対策と教育についてであります。現在県立松崎高校の生徒数は301名だそうです。以前一般質問で松崎、西伊豆中学の入学率が60パーセントである。あとは地域外からの入学により学年3クラスを確保できている状況であると言いました。今の中学3年生は両町を合せて124名、2年生は134名、1年生は118名であることから考えますと、70人から80人が松崎高校に進学するのではと予想されます。

しかし、あとは町外からの入学を期待して3クラスとなります。小学生になりますと、1

学年平均92.6名、0歳から5歳は平均68.1名です。このことから推測しますと、5～6年後には松崎高校は1学年50名前後と予想されます。

最近では、松高OB会また小さなお子さんを持つ父兄からも松崎高校の分校化や地区外への統合を心配する声も多くなってきていますので、地域に活力を与え、地域経済を発展させるためにも元気な松崎高校になってもらわなければならないと考えるものであります。一人でも多くの学生が集まる松崎高校にするために町はどのような対策を講じているのかお聞かせください。

次に、「教育の充実が地方創生、地域の活性化の第一歩と考えるが」であります。「教育委員会の統合や地域の特色、歴史と文化をいかした町の取り組みの考えは」についてであります。

地域の子どもたちや父兄に愛されるまちづくり、松崎に住んでもらう、大人になってもわびさびのわかる国際人を育てる。そんな発想から、以前にも質問をしておりますが、学童を増やすための具体的な答弁をまだいただいておりますので、当町での方針ができていればお聞かせ願います。

また、当町では中高一貫教育を行っていますが、東京の一部の区では、来年度公立の小中高一貫教育を始めるとの報道も出ています。

西伊豆との教育委員会の共同設置も飛び越し、最近では1市5町での共同設置が検討されるなど、早急の感も否めない面もありますが、町長はこの動きをどのように考え対応していくのか伺いたいと思います。

次に、環境について質問します。水道事業の取り組みについてであります。電気料金の値上げで維持費が上昇、水道管の更新や人口減少などによる使用料の減少が重なり、水道料金の内容を検討している自治体も多くなっていると伺っています。

当町では、24年度に管理費の削減や自然環境に左右されにくい地下水を求めて石部区域で掘削を行いました、失敗しております。

第5次総合計画では、29年、30年にかけて新石部井戸の掘削工事が予定されておりますが、水道水の安定供給と料金の改定についてどのように取り組んでいくのか、お尋ねいたします。

次に、宮内地区にある温泉供給タンクの改修についてであります。この第1給湯タンクの改修については、2～3年前に議案審議されたと記憶しているところであります。その時には東日本大震災もあり、浸水区域である点や耐用年数を大幅に経過しているものの、無理に

改修する必要がないのではないかとの意見によって否決されたと記憶しています。

第5次総合計画の中で、30トン、50トンのタンクが改修計画されておりますが、浸水区域である点などを考慮した中で、どのように改修していくのか、今後の事業運営と新規加入状況をお聞かせください。

これにて檀上からの私の質問を終わります。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 藤井要議員の一般質問にお答えします。

1. 松崎町の今後の取り組みについて。①「松崎町大澤にある、県指定有形文化財(依田家)をNPO法人伊豆学研究会など2団体が落札したが、町では今後どの様に関わっていくのか」についてであります。

大澤の依田家住宅については、テレビ、新聞等でもご承知のとおり伊豆の国市にある「NPO法人伊豆学研究会」と静岡市にある「くらしまち継承機構」が共同落札をいたしました。

依田家住宅は、県指定有形文化財にも指定され、依田佐二平翁や依田勉三翁の生家であり、北海道帯広市との関係も深いことから、重要な建物が両団体のご尽力により保全されることは誠に嬉しく思っています。

今後、伊豆学研究会では、地域、関係団体、県、町を含めた協議会を設置し、依田家住宅の保存や活用を検討することとしており、町といたしましても、道の駅「花の三聖苑」と連携し、那賀川を含む一帯を文化的な拠点として利活用が図られるよう協力してまいりたいと考えています。

②「松崎町が誇る8キロにも及ぶ桜並木が老木により枯れが見られてきているが、次世代に向けた取り組みが必要と考えるが」についてであります。

町内を流れる那賀川沿いには、6キロ、1200本余りのソメイヨシノが植えられ、田んぼを使った花畑とともに、那賀川堤の桜として、テレビやガイドブックで紹介されるなど、花の名所になっています。

現在、松崎町さくら会の皆さんが枝打ち、草刈りの管理を行うとともに、町では、冬期にカイガラムシや黒星(くろぼし)病予防の薬剤散布や天狗巣病除去作業を実施するとともに、那賀バイパス沿いの樹勢の弱った木には施肥も行っております。

なお、去る9月17日に県環境ふれあい課職員や樹木医に那賀川堤、大澤、宮の前橋から伏倉橋間の桜の巡回指導を受けております。

樹木医からは、台風による海の潮風により花の付きが悪くなっていること、桜の植栽間隔が狭く、湿気に弱い桜にとって河川沿いは余り良い環境ではないこと、老木になり朽ちた桜は病気を蔓延させる原因になることが指摘され、町では、枯れているものは撤去するなどの対策を講ずるとともに、これまで実施している天狗巣病の除去活動や消毒、施肥を継続し、ソメイヨシノの保全に努めてまいりたいと思っています。

③「しんわグループが松崎・西伊豆町で農業を始めとして活発な事業展開をしているが、当町はどのように関わっていくのか」についてです。

介護福祉事業を中心に事業展開している「しんわグループ」が農業展開しているという話は聞いています。「しんわグループ」が農業経営を行うことは、農業委員会の手続きを経ただけであれば問題ありませんので、相談があれば法令に基づく適切な助言、指導を行います。

2. 人口減少対策と教育について。①「少子化により学級数の減少が心配される中で県立松崎高等学校の存続を心配する声が出ているが、今後の町の取り組みと対策は」についてであります。

少子化による西豆地区の子どもの数は、小学6年生以下の年代から100人を割り込む見込みです。また、最近の松崎高校への西豆3中学校からの進学率は約6割ほどで、現在でも120人の定員を維持できない状況となっております。

根本的な要因は、子どもの数が絶対的に少ないことですので、西豆地域の共通課題として西伊豆町と協力して対応していくことが必要かと思えます。併せて、このようなことが予想されて平成20年度から発足しました西豆地区連携型中高一貫教育の協議会で、多くの生徒に入学してもらうため、生徒保護者のニーズに合った松崎高校の魅力を出してもらうようお願いしてまいりたいと思えます。

②「教育の充実が地方創生、地域の活性化の第一歩と考えるが、教育委員会の統合や地域の特色、歴史と文化を生かした町の取り組みの考えは」についてであります。

賀茂地区5町に平成26年度から3年間県費負担の指導主事が配置されておりますが、平成29年度からは町費負担での設置になります。賀茂地域広域連携会議専門部会等では、財政的負担を軽減するため5町による共同設置の方向で進んでおりますが、教育委員会の統合については具体的な協議はされておられません。今後協議される場合は、そのメリット等を精査研究しながら対応してまいります。

また、地域の特色、歴史と文化を生かした教育についてですが、小学校では3年生以上が

総合的な学習で、身近な環境、歴史、そこに生きる人々とのかかわりについて年間のテーマを決めて授業を行っており、中学校では「西豆学」や夢ロマンカレンダー作りと配布などを通して、郷土に興味関心を深められる生徒を育てております。

3. 暮らし・環境について。①「水道管の老朽化や人口減少による水道料金の値上げが全国的な傾向である。わが町も24年度に新水源を求めた掘削が失敗しているが、今後の水道事業の取り組みは」についてであります。

老朽化で水道管などの維持改修費がかさむ一方、人口減で料金収入が減り、水道事業の収益が悪化し、水道料金の値上げに踏み切る自治体が全国的な傾向にあることは議員ご質問のとおりです。

松崎町においてもこの10年間で給水人口は約1300人減少し、使用水量は18%の減となり水道事業を取り巻く環境は年々厳しい状況にあります。

昨年、国からの通知において将来にわたり事業を安定的に継続するため「経営戦略」を事業体で策定し、これに基づく計画的な経営が必要であるとの通達がありました。この経営戦略は設備投資を見通した投資試算と料金等財源を見通した財源試算を均衡させた投資・財政計画です。経営戦略を策定する中で、当然施設の更新整備計画や料金改定等の具体的な検討がされますので早期に取り組んでまいりたいと思います。

②「宮内地区にある温泉給湯タンクは耐用年数を大幅に経過している。タンク更新について議論された経緯もあるが、老朽化対策や新規加入促進などの今後の取り組みは」についてでございます。

第1配湯所貯湯タンクは、建設後40年を経過し老朽化が指摘されてきたところです。

貯湯タンクの更新については、温泉の安定的な供給や災害対策の面からも必要であると思っておりますので、整備計画において温泉実態に合ったタンク容量や耐震化を見据えた工法の検討を行ってまいりたいと思います。

新規加入促進につきましては、平成18年以来新規加入がない状況を打破すべく、本年4月から加入金を下げた10年間の期間限定加入をスタートし、現在のところ2件の新たな供給許可を行っています。新規加入者も思った通りに伸びてはいない状況のため現在担当課において配湯対象世帯へのダイレクトメールや個別訪問を行い新規加入者の確保に努めております。

以上でございます。

○1番（藤井 要君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○1番（藤井 要君） それでは、最初の大沢の依田邸の関係でございますけれども。これは先ほど檀上で言いましたけれども、第2回の競売と言うんですか、12月9日になっている開札が中止になった。取り下げられたということですが、町長、お聞きになっておりますか。

○町長（齋藤文彦君） 聞いています。

○5番（藤井 要君） この詳しい内容等はいろいろのこともありますから、答えられないと思うんですけれども。最初の3200万円で本体と言っていると思うんですけれども、落札したわけですが、伊豆学の橋本さんがこれから町と協働でいろいろな利用をすることについて話し合っていきたいと・・・。また先ほどの町長の答弁ですと県ともいろいろ検討するということになっておりますけれども、松崎町としては伊豆学さんのまだ正式なそういう問いかけがないんですか。

○町長（齋藤文彦君） 伊豆学の橋本さんと2つのNPOの団体の皆さんとは非常に連携を密にしてやってきました。私は、このNPOの皆さんがこの依田邸を取得してくれたのは本当にものすごくうれしくて、非常にうれしく思っているところでございます。

依田家の住宅と道の駅三聖苑を含む一帯を整備して、伊豆における文化、観光並びに松崎創生の私は原点にしたいなとずっと考えていましたので、伊豆学と協力しながらこれから協議会を立ち上げることになるわけですが、その中でどういうふうにしていったら一番依田邸が活発に動く、旧依田邸が活発に動けるようになるか、この検討会の中で話し合っていきたいなと思っています。

○5番（藤井 要君） まだ話し合いが持たれていない、今からということになるわけですが、以前町長は・・・、この時には金額が金額でちょっと松崎町が手を出せるような金額ではなかったわけですが、伊豆学が落とされたということになりますと、今の話しを聞いていますと積極的に関わっていきたい。そういうふうにはいま私は受け取ったわけですが、それでいいわけですね。そしてその中で、まだ町長・・・、正式にはそういう場がないわけですが、もっと具体的にどのように町として関わっていくんだと、私はこう思っているというような考えがありましたら、ここでお願いしたいと思っております。

○町長（齋藤文彦君） まだ協議会が立ち上がっていないわけですから、いろいろこの場で言うと、また後でいろんなことがあると思うわけですが、やっぱり先ほど申したとおり依田住宅と道の駅三聖苑を含む一帯をやっぱり松崎の文化伝統の基本的なところだと思って

いますので、ここを中心に松崎創生を進めていったらいいかなとずっと考えていましたので、そのように協議会の中で話をしていきたいなと思います。

また、帯広との関係があるわけですから、やっぱり町民、帯広市民、観光客の皆さん方がその場で一緒に学び遊べるような形になればいいのかなと思っていますので、積極的にやっていきたいなと思っています。

また、皆さんご存知のとおりなまこ壁の建物の元祖でありますし、明治国有の生糸生産の生産地でありますし、帯広開拓の依田勉三の生家ということ。こういう松崎のエキスが集まっているものですから、これを本当に松崎創生の基にしてやっていきたいなと思っていますので、まだ協議会も立ち上がっていない時にいろいろ言えないところもあるわけですが、このような思いを協議会の中で私は話していきたいと思っていますのでございます。

○5番（藤井 要君） 立ち上がっていない中で、あまり先さきへと質問するのもなんだと思いますが、町長、これはあれですよ。協力するということになっているから、もう腰を据えて松崎の観光資源に対して積極的に協力するということで私は解釈します。

それで、利用価値と言ったら、今あそこは温泉もあるわけですがけれども、その温泉が今回の取り下げになっておりますけれども。町長は知っているでしょうけれども、どうなっているのか、そういうところ……。あそこは温泉がないと何か人が集まってもリラックスする時にはかなり価値的に価値が下がるんじゃないかと思うんですけれども、温泉関係の鉱泉地3本ある中で1本が松崎町が差し押さえているというようなことも伺っているんですけれども、利用価値についてどのように考えていますか、温泉の。

○町長（齋藤文彦君） あそこは温泉がないと本当に半減すると思いますので、松崎町が差し押さえていますので、それをうまく利用してやっていきたいなと思っています。

○5番（藤井 要君） 差し押さえているだけではいつまで経っても差し押さえているだけ、また、競売も始まるようなことも考えられるわけですがけれども、町長はこのままそのままにしてずっと差し押えのままいくのか。それとも何とかして先ほどの12月9日のはわかりませんが、町に関係するとか伊豆学さんに関係する、そういう団体に落としてもらって有効活用というようなことは考えていないんですか。

○町長（齋藤文彦君） いま松崎町で差し押さえているわけですがけれども、松崎町が買い取るということはなかなかできないということですので。競売になるとは思いますけれども、ぼくたちに有利な方が競売で落としてくれればいいなと思っていますところです。

○5番（藤井 要君） これもまだまだ先の話になるかと思いますが、やっぱりしっか

りと伊豆学さんともこれから早急に県とも話し合いながら、松崎の文化財というか、観光資源でありますので、しっかりと松崎が利用できるようにしてもらいたいと。

そういう中で、以前町長が否定したわけですがけれども、先ほど言ったように、これは先ほどお金の関係が1億何千万円の話、今回は3200万円ということで、乗り気になったと思うんですけれども、これからそういう話の中で、これは仮定で言っては申し訳ないですが、松崎町が管理してくれとか、そういうふうになった場合には、どうするお考えがありますか。これは仮定の話ですからね。

○町長（齋藤文彦君）　そういうこれからのことはちょっと話ができないわけですがけれども、ただ、NPOの2つの団体が依田家を手に入れたということは非常に感謝しているわけで、これをうまく利用して本当に松崎の活性化の中心にしていきたいなと思っています。

また、あそこは重点道の駅もありますので、それと併せてやったらそれなりの破壊力が出てくるのではないかと考えていますので、松崎町としても本腰を据えてやっていきたいなと思っています。

○5番（藤井 要君）　依田邸に関しては、これ以上あまり話は進まないと思うので、しっかりと対応して、松崎の資源として残してもらいたい。そのように考えております。

桜の関係ですがけれども、これはやっぱりあそこの依田邸に続く宮橋ですか、あの赤い橋、あそこからずっと三聖苑から来て、そして依田邸まで続くあそこのやっぱり道も整備して観光客が散歩できるような、そのようなことを私の頭の中でイメージはあるんですけれども、先ほど言いました大沢沿いのあそこが一番枯れがちょっとひどいんですね。もうこれは何年もつかというようなこともあるわけですがけれども先ほど県の見解も町長は言いましたので、お聞きしておりますけれども、じゃあと言って、このまま黙認のまま進めていくというわけにもいかないと思うんですけれども、どうですか、町長、その辺は何かいい手がないですか。桜の再生とか、もうちょっと・・・、桜がだめなんだったら違う方法で日本一の8キロですか、6キロですか、そのくらいの・・・、作ってやろうじゃとか、そのような考えはないですか。

○町長（齋藤文彦君）　大沢地区の那賀川沿いの桜と・・・、満開の時に本当に竹の短冊に日本全国から俳句をいただいて、竹の短冊で桜と短冊が桜の木に吊るされるわけですがけれども、あの風景を見ると本当に松崎っていいなと思うわけで、あそこはいろいろ河川法があつて簡単なことはできませんので、ただ、桜の保全には全力をかけてやっていきたいなと思っていますところでは。

○5番（藤井 要君） 先ほど私も冒頭で言いましたけれども、補植や剪定とかいろいろやってくれていることはちゃんと見ておりますけれども、これはやっぱり老木になっていて、だんだん無くなるんですよ。無くなって・・・、先ほどから言っている県の関係がありますけれども、これは予算的には松崎町はどのくらい毎年かけていますか。桜のそういう改修と言うか、補修等に関して。

○企画観光課長（山本 公君） 先ほどの病虫害対策とか、天狗巣病の除去の関係ですと、今年度の予算で天狗巣病の除去が30万円、それから消毒の関係ですと28万円くらいの予算の措置をしてありますけれども。それ以外に当然シルバーなんかを使って手入れをしたりとか、施肥、肥料をこのあいだ那賀バイパスのところに肥料なんかを入れたというような経過もございまして。そういう部分がありますので、トータルでいくらというようなことはいまお示しはできませんけれども、そのような形の中で保全活動は続けているということでございます。

○5番（藤井 要君） だいたい60万円から70万円くらいということになるかと思っておりますけれども、やっぱりね町長。もうちょっと早く次世代に向けたということで、私も冒頭で言いましたけれども、本当に本腰を入れてやっていかなければ、あれは無くなると思えますよ。私は中川の建久寺のところに住んでいるわけですが、そこだっけかなりだめになっているんですよ。河川法の関係もありますけれども、やっぱりこれは県とか、もう何十年、60年、70年ではきかないあれですよ、あそこはずっとできてきたのが。考えてもらいたいと思います。

それがだめだったら、また日本一の・・・、先ほど言いましたけれども、何かを考えなければいけないと思うんですよ。桜がだめだったら、じゃあ何かでやろうかと、町長は前にハーブ、中川でもやっていますけれども、ハーブを町長は最初にハーブ牛だとかでいろいろやりたいということでやると。ハーブの関係は今あそこを見ますと、何回も聞いていますけれども失敗していますよね。そういうのになると失敗は成功のもとで、2回目をやればハーブはいいかもしれませんから、いろいろとハーブ通り何キロにも及ぶハーブの町なんていうので、またどうですか、町長。

そんなのでいろいろやっぱりアイデアを出してやってもらいたいなと思います。その点はどうか。

○町長（齋藤文彦君） やっぱり岩科川、那賀川沿いの桜というのは、松崎町にもものすごくびったりして・・・、桜は日本中にあると思うんですけども、特に似合っているなと思います

ので。ただ、ここで大きなことは言えないわけで、やっぱり河川法もありますし、河川管理者がいますから、そのようなことがありますので、ここででかいことは言えないわけですが、保全に努めていきたいなと思っているところでございます。

○5番（藤井 要君） それでは、しっかりと保全に努めていただきたいなと思います。

次に、しんわグループの関係ですけれども、最近ですね。ブログを見ますと、しんわさんは西伊豆のあれは旧洋ランセンター跡地だと思うんですけども、そこに保育園とか幼稚園を一つにして、しんわグループで運営という話が出ていたり、そして、40床くらいですか、その辺の有料老人ホームを作るとかということも西伊豆さんで活発に出ている。そして、12月頃ですかね。これはアグリの関係、株式会社しんわアグリとか、ちょっと名称は忘れちゃったけれども、そのようなことも立ち上げて事業展開をしていく、事業展開してくれることによって雇用の場も増えてくるわけですけれども、松崎町と先ほど言いました町長との事業展開に向けた地域再生みたいな、そういうお話なんかは、時間を持ったことがあるんですか。

○町長（齋藤文彦君） しんわの会長とは話したことがありますけれども、事業展開の話なんかはいつもなくて、そのような話があればこちらもそれ相応の相談に乗るつもりでございます。

○5番（藤井 要君） 会ったことはあるけれども、そういう事業に対しては話をしていなかったということですが。西伊豆さんの・・・、いろいろ見ていますと活発にやっていますけれども、町長のうちの方も例えば、中身はわかりませんが、しんわさん、うちの方へ来ていろいろ事業展開してくださいよとか、そういうようなのも待っている・・・、待ちじゃなくて、積極的に打って出るのも手じゃないかと思えますけれども、その点はどう考えますか。

○健康福祉課長（高木和彦君） しんわさんはもう既に松崎町で有料老人ホームですとかを営業しています。最近、石部の方に老人施設を造りたいというお話はありました。内容としては、住宅型有料老人ホームということで、このような施設を作る場合には、県の認可が必要になります。それにつきましては、十分な内容を協議して、県の方に出すようにということはお話をしてありますし、また、いま現在、県の方と協議中ということを知っています。

また、石部も海に近い所ということがあるものですから、それについては津波発生時に十分そこらの対応をするようにということはあるんですけども。とにかく県の方にこの施設については、出すということになっていますので、動向を見ているところです。

ただ、今回西伊豆町さんの方に建設という話もありましたので、ちょっと松崎町の方の計

画はどうなったのかとちょっと心配はしているところです。

また、いろいろ日頃から松崎町の介護にはなくてはならない施設ですので、そういうことの連携というのは、今現在もされておりますので、ご承知ください。

○議長（稲葉昭宏君） 町長、いいですか。

○町長（齋藤文彦君） しんわさんとは1回しか会って話しをしたことはないわけですがけれども、その第一印象はいろいろありまして、私は、松崎町が積極的にいかななくてもいいのかなと、向こうが来たらこっちもこうやりましょうというような感じでいけばいいのかなと思っているところです。

○5番（藤井 要君） じゃあ、町長は好きな言葉が北海道はでっかいどうということで、町長の腹もでっかいどうということで、じゃあ、待っているということで、仕方がないのかなということで、それを受けるわけですがけれども、これはちょっと関連になりますけれども、先に冒頭でも言ったかもしれませんがけれども、いろいろあれですね、保育園。先ほど言った一時保育とか、そういうのも関係ありますけれども、あそこは町では何も協力というか、補助もないわけですから、自分でやれるわけですがけれども、次の松高の方の関係もちょっと出てくるかもしれませんがけれども、影響というのがありますか。うちの方の保育園児がいま・・・、今年松崎の幼稚園に入るのが39名中17名でしたか、そのような影響もありますかね、どうですか。

○健康福祉課長（高木和彦君） しんわさんが運営している保育園は認可外の保育園でありまして、一応基本的にはしんわさんに勤める方のお子さんを入所させるような形になっております。特に、いま4人のお子さんがこちらに通っていますけれども、例えばこれから聖和保育園に入れなかった場合の待機児童的なことが出たときには、しんわさんの方にも協力をいただきまして、そちらの方に入園できる。また、費用の差がどうしても出てきますけれども、そういう場合は、町の方で負担するなんていうことも考えております。

○5番（藤井 要君） 横のつながりもまたしっかりやりながらやってもらいたいと思います。

これは、人口減少の対策ということでございますけれども、先ほどから言っております。松崎高校の関係、これは町長からも答弁がありましたように、本当にこれからどうなっていくのかと本当に心配しているわけですね。

そして、その中で、具体的には常葉の関係もまたいろいろ出てくるかと思うんですけれども、もっといろいろな面で例えば、事業の関係にしてもそうですけれども、私がよく思って

いるのが、リタイアした人、大企業なんかで・・・。そうした人が松崎なんかにいれば、その人たちなんかもこっちに住みながら松崎の事業に参加している。専門的なことをいろいろ教えてもらったりとか、しゃべってもらおう、そして興味を抱いてもらおう、それから、そういうことに関して興味ある人がよそから松高に来るとか、いろいろそんなことができないかなと思っているところなんですけれども、もう・・・、先ほど言った5～6年から7～8年ずつとなると本当にもう50人を切るとか、もう南伊豆、下田・・・、河津の方は来ていないと思えますけれども、どんどん、どんどん減って来た場合に、1クラスだけということも考えられるわけですね。

そうすると、いま松高は偏差値がFだと思いますけれども、そうした場合に、本当に困るのではないかと・・・、働く所はないからよそに行っちゃった方が近いよと、松高から例えば下田になりますと、下田だとバスだって学割はあるかもしれませんが、3万円から4万円くらいかかるんじゃないですかね。宇久須の方からになればもっとかかるんじゃないかと思うんですけれども。そういうことを考えて、もうちょっと町長、今から海士町じゃありませんけれども、増やす、引っ張ってくる、それから何とか・・・。先ほど言いました西伊豆町との教育委員会の合併というか、共同設置が今度は1市5町になったりとか、そういうことがどんどん、どんどん進んできておりますけれども、もうちょっと具体的に町長、何か答弁できるようなものはありませんか。

○町長（齋藤文彦君） 西豆の子どもは西豆で育てようということで西伊豆町と連携の中高一貫教育がスタートしたわけで、その時にやっぱり1学年が最低120人が最低条件だということでスタートしたわけなんですけれども120人を超したことがないわけで、今でも中学1年生が西伊豆町と松崎町を合せて、中学1年生が118人、中学2年生が134人、中学3年生が124人というようなことで、120人を確保するのは厳しいのかなと思っています。

また、向こうは県立ですから、なかなか難しいところがあるわけなんですけれども、。やっぱり松崎町と西伊豆町と協力して、やっぱり本当にあの先生だったらぜひ松崎高等学校に行きたいよというような、やっぱりいい先生を招へいしてくるというようなことを積極的にやっっていかなければいかんなど。そして、やっぱり松高というのは、この地域になくってはならない学校だということで、両町民の皆さんが盛り上げていって、西伊豆町と松崎町が全力でやっっていかなければ、なかなか厳しいところがあるのかなと思っていますところでございます。

○5番（藤井 要君） いま町長も言いましたけれども、これは、いま1歳のところが53人ですよ、松崎町と両町を合せて。これは60パーセントということは関係ないかもしれません

けれども、この時になると。60パーセントがこのままの推移でいくと30人くらいですよ、松高に入る・・・。南伊豆だって減ってくるということになると、本当にこれでいいのかなと思うわけです。

それで東京の方では、ある区では小中高一貫教育というようなことが4月から始まるころが1つあるということですがけれども。いま中高一貫教育をやっていますけれども、これは松崎も小中高一貫教育くらいやっっていかなければならない。でも松崎の場合は、西伊豆との関係もあるわけですので、そこでやっぱり西伊豆との教育委員会のそういう協力というか、統合、そんなところも早急にやる。その中で1市5町ということがもう出てきちゃっていますけれども、この点をもう一度町長、真剣に考えた場合に、どうお答えできるでしょうか。

○町長（齋藤文彦君） 西伊豆町と松崎町の教育委員会を一つにしたらどうだろうかとということで1回視察に行ったことがあるわけですがけれども。その視察の中で感じたのは、地域の・・・、あそこは非常に金持ちなところで自分たちのところとちょっと違うなというようなことを感じたわけですがけれども。地域の教育力の低下をさせないため、研修や人事管理についての事務を行っているだけで、その他の事務や施設の管理は今までの教育委員会がやっているというようなことで、なかなか西伊豆町と松崎町の教育委員会を一つにするのもちょっと疑問を感じたところで帰ってきたわけです。

いま1市5町の方で、広域連携会議の方で賀茂郡1市5町で教育長、教育委員会を一つというような話が出ているわけですがけれども、やっぱりその地域地域でそれなりの問題を抱えているわけですから、そう簡単に進まないわけで、やっぱり煮詰めていかなければ難しいのかなと思っています。

教育長の方から何かあったらお願いします。

○教育長（山本正子君） 子どもたちが年々減少している中で、子どもの教育環境に一番いい環境を作るために教育委員会がどうあったらいいかという形で話し合いに参加していきたいなと思っています。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。藤井君、時間がきていますが、延長しますか。

○5番（藤井 要君） お願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 5分延長いたします。

○5番（藤井 要君） それでは、松高の関係は一生懸命というか、何か考えてやってもらいたいということで・・・。

2番目の教育の充実が地方創生、やっぱり子どもたちを育てるのには活性化の第一歩と考

えているわけですがけれども、今「まつぼっくり」をやっていますよね。「まつぼっくり」をやっている中で、これは名前を出したっていいと思うんですがけれども松本さんという方があの依田邸の勉三さんの関係、劇なんかもやっていますいろいろ指導してくれたりとかをやっていると思うんですがけれども。そして今度、幼稚園があるところに児童館が引っ越しよというようなことも最近というか、何年かの間にあるというようなこと。そういう中で、課外授業じゃないですがけれども、今でもある先生が宿題を教えながらいろいろ面倒をみていると。そのようなことを伺っておりますけれども、もっとそういう点を地域の文化に根差したいろいろ、先ほど私・・・、前にも言っておりますけれども、詩吟や俳句を教えたりとか、基礎なんかはいいと思うんですよ。そうした中で、日本人のそういうわびさびをしみ込ませて国際人に英語をしゃべってもらおうと。そのようなことも考えているんですがけれども、そういうやっぱり教育の充実が子どもたちの増加に結び付くのではないかと私は考えるんですがけれども、その点はどうでしょうか。

○教育長（山本正子君） まちづくりと人材育成の視点を落とさずに学校経営をするようにということは校長に求めております。

本年度も美しい村の構成要素である棚田の学習を5年生が、それから、なまこ壁に関する長八の長八さんの関係をもものつくりクラブと1～2年生が踊りの復活などで参加しました。そして、子どもたちが町の歴史や文化、多くの人や物や事に会うということは、自分の生き方を形成する基礎になると思っておりますので、これからも続けていきたいことだと思っております。

○町長（齋藤文彦君） 教育長も言いましたけれども、やっぱり国のもと人は、人のもと教育だと思っております。

松崎町は、松崎の文化に包まれた地域と共に育つ子ということで子どもたちを育てようと一生懸命やっていますので、このようなことが充実してくれば人数も増えてくるのではないかと考えているところです。

○5番（藤井 要君） 教育長と町長の方から答えというか、答弁もありましたけれども、児童館が新しく移動する時なんかにもやっぱりそういう時間外でみる。そして、地域の方々が積極的に子育てに協力することがやっぱり地域の活性化になっていくと思うんですよ。年寄りの方もお元気になる。そういうことをこれからもやっていただくことをお願いしまして、教育については終わりたいなと思っております。

次に、水道料金の関係でございます。最近あちこちの自治体で水道料金が値上がりしてい

るということを先ほど冒頭でも言いました。震災の関係で電気料金が値上がり、そして人口が少なくなっていく。そういう中で管理費はどうしてもそういう面では増えていくわけで、人口が減ると、もちろん頭割りになれば単価がずれてくるわけですがけれども。これは10年間の水量の推移を見ましても、三浦地区では31パーセントですか、減っているんですよ。その次に中川地区ですか、17パーセント、松崎が16パーセント、岩科が10パーセント。これは人口の推移の関係ももちろんあるわけですがけれども、三浦地区で31パーセント、これは有収量の推移で10年間で減っているということになると、これは10年間で3割ですから、大きいですよ。

そして、料金改定の方を見ますと、これは13年度に料金が改定されていますよね。約7年後、20年度にも料金が改定されています。順番からいけば、27年度くらいが料金改定のあれかなと思いましたが、これは平成12年度には1 m³ですか、水1 m³を販売するのに必要な費用、販売をして得られる収入の差ということがここにありますがけれども、平成12年度には、販売するのに必要な給水原価が89円、供給単価が99円で10円の差がありまして、13年度には改定しました。

そして、20年度、これは改定しているわけですがけれども、19年度の時に給水原価が124円、供給単価が125円ということで1円の差しかなくなっちゃった。これは1 m³ですかね、両方も。26年度には、まだ6円の差があったんですけども、27年度にはどのくらいの予定というか予測が出ているんですか。

○生活環境課長（高橋良延君） ただいまの藤井議員の質問でございます。27年度のいわゆる利益の見込みはどうかというようなことかと思えますけれども、水道事業の利益率をみる指標として供給単価と給水原価、この2つがあるわけです。26年度決算においては、藤井議員のただいまのご指摘のとおり、その差は6円でありました。

平成20年の料金改定時には22円ありました。この差額がマイナスになってしまうと赤字に転落するということになります。この両方の指標のいわゆる分母の数値は何かというと、有収水量です。27年度は有収水量がかなり下がってきておりますので、分母の数値は低くなってきているということを考えますと、供給単価、水1 トンを販売するのに得られる収入はそうは変わらないだろうということで見込んでおります。

ただ、一方給水原価、水1 トンを販売するのに必要な費用の方、いわゆる給水原価の方については、分母の有収水量が減ってきますので、ここは若干26年度よりは上がってくるだろうというような現在見込みです。ただ、27年度一気にここの差額がマイナスに転じるとい

うことでの予想は、我われはしておりません。昨年が6円ですので、ここは若干差が詰まってくるだろうというようなことは考えられます。

ただ、じゃあ、それを料金改定・・・、じゃあ、どうなるのかということについては、先ほど町長が言いました経営戦略をこれから策定しなければなりません。そういう中で、実際に更新整備計画といわゆる投資の方と料金の方を見据えた投資財政計画を作りながら、そのところは、給水原価とか供給単価、ここは見据えていきたいと思っております。そんな状況でございます。

○議長（稲葉昭宏君） 藤井君、時間ですので。

○5番（藤井 要君） 時間的に最後になるかと思っておりますので、今から経営戦略を立てるわけですけれども、安心して安い水が一番いいわけですので、しっかりと戦略を立ててもらいたいと思います。

掘削の問題、石部地区に掘削をとということでしたけれども、時間がないですので、これからの見通しとして若干答弁してもらって、私の質問を終わりたいと思いますけれども、新水源の関係。

○生活環境課長（高橋良延君） 石部の水源の関係ですけれども、前回24年の時は、浅い20メートルの工法で失敗をしたわけでございます。今現在我われが考えているのは、もっと掘削を深くした深井戸、200メートル、250メートルの深井戸工法でのボーリングができるかどうか、それが結果的には、地下水源は維持改修費用、維持管理コストを大幅に減らすことができますので、その掘削の工法が、いま変更するために、その事業費の積算とか、あと、深井戸工法への現場の作業等、可能かどうかの詳細な検討を今現在しているところでございます。

○5番（藤井 要君） 以上、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で藤井要君の一般質問を終わります。

暫時休憩します。

（午前10時27分）